

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800064		
法人名	社会福祉法人 高佳会		
事業所名	馬瀬グループホームいきいき		
所在地	下呂市馬瀬惣島1518番地		
自己評価作成日	平成24年3月28日	評価結果市町村受理日	平成24年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	情報提供票をご覧ください
----------	------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年7月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・個人の人生史をたどることにより原因を追究し、ケアに反映する ・体調の管理を注視するために、職員のスキルを高め継続的な記録を整備し、個々の発想パターンを推察し、ケアに生かす ・口腔ケアを他のケアとの整合性を図りながら専門的な口腔衛生指導を実施します
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>川の流れる静かな谷あいの集落に、平成23年6月に開設したグループホームである。法人理事長は、歯科医師で、高齢者の健康維持には口腔ケアが重要であると考えており、この地域に歯科医院がないことから事業所内に歯科診療所を開設し、訪問診療も実施している。歯科診療とは別に、歯科衛生士が利用者の口腔ケアを実施しており、ひどかった口臭が無くなったと家族にも喜ばれている。外来も受け入れており、利用者との出会いの場となっている。運営推進会議の中で、外来受診の足について、行政、法人、地域の役員が共通課題として意見を交換する等、課題解決に向け話し合っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念を復唱し、共有している。	職員は、「ゲストに満足と笑顔を、地域に安心と輝きを」の理念を毎朝復唱し、共有している。職員は一人ひとりの利用者をよく知り、毎日、利用者全員に言葉を掛けることをモットーに、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は出勤時や退勤時、地域の方とすれ違う時は、あいさつを交わし地域の祭り、神社祭に参加し、交流を図っている。	自治会に加入し、回覧板から地域の情報を得ている。協働作業には職員が、神社の祭り等には利用者も参加している。近辺に住宅が少なく、ボランティアの訪問時や買い物に出かけた時等を、住民との出会いや交流の場としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オムツ→パンツへと事例を残し家族様や内覧に来られた人にお話している。 オムツ講習会及び反省会を開き、より良い安心と快適のオムツ対応を考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に利用者様ご本人や家族様が参加されている。 ご利用者様の様子や今後の取り組みをご報告し、意見をお聞きして向上に生かしている。	地域の役員、利用者、家族、地域包括支援センターの職員等が参加し、2ヶ月に1回開催している。事業報告に対する意見を交わしたり、災害対策の具体的な話し合いを行い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議委員の方や見学の方には事業で行われた実績など常に報告している。	市の担当者へは、事業実績を常に報告している。災害対策でも情報を交換している。地域の福祉課題について話し合い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の動きに制限を設けず家庭的な環境で見守りができている。日中は特養棟にも自由に入出りが出来るよう施錠せず見守っている。	野菜作りや散歩等、戸外に出て解放的な気分が体感出来る支援をしている。全職員が拘束をしないケアについて正しく理解し、行動を制限しないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全を確認しつつ自由な暮らしを支援する工夫をしている。 県の社会福祉協議会主催の研修会に参加し、虐待防止の理解に努めている。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市・社会福祉協議会から情報・資料提供を受け、個々の対応を行っている。入居時には身元引受人の関係で質問を受け説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長・管理者・事務より説明が行われている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。苦情を頂いた棟はユニット内全スタッフが都度ミーティングを行い改善点を書面化し実施している。	運営推進会議の中で、家族から意見を聴いたり、面会時にも話し合っている。利用者や家族からの意見・要望等は、その都度職員会議で検討し、速やかに改善に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設全体のリーダー、ユニット会議を毎月設け意見交換している。	月1回のユニット会議で、業務の改善等について話し合っている。職員から、暑さ対策ですだれの取り付けのほか、備品関係の配置と管理についての提案があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価表にて向上心が持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の申し送り等で各自業務・疑問点をその日に報告され、迅速に解決している。研修へも必要性・要請があれば出向いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本部へ連絡をし、経験や実績のある上司からのアドバイスを受けている。 福祉施設の情報誌にて勉強会を設けサービスの質を向上している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には管理者又はリーダーが本人・家族様と面談してアセスメントし、生活歴や介護での意向をお聞きし、プランに取り入れ、安心・安全に過ごして頂ける環境作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネージャー、ユニットリーダーがアセスメント実施時に、ご家族様より希望を伺い安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入居にあたり、何を希望し、どのような事を期待されているのか心配・不安は何か見極められるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や食事・掃除など日常生活、特に家事を中心に「共に過ごして支え合う」ことを重要としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と常に連絡を取り合い身体状況からの通院・外出・外泊と本人と家族様の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若いころから細かい作業が好きで作った置物等をお借りして展示し、大切にされてきた思い出作りをしている。 自宅にある季節の花、果物等を提供して頂き馴染のある場を思い出して頂けるようにしている。	利用者一人ひとりの生活歴や会話の中から馴染みの人や場所等を把握している。馴染みの場所をドライブしたり、家族の協力を得て、敬老会や趣味の木目込み人形の展示会等に参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度の違うご利用者様がお互いに助け合える、食事席を考えトラブルが起きないように、又、孤立されることのないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の状況を毎月「お手紙」として、写真を取り入れた文書で近況報告して、家族とのつながりを大事にしている。また、ちょっとした体調変化についてリーダーから家族に報告している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ全員が一人ひとりの思いや希望について関心を持ち、情報を共有している。朝食は起きて来られた方からパン・ごはん・ヨーグルトと希望に応じて提供をしている。入浴は好きな時間、箇所に対応している。	職員は、一人ひとりの見守りケアの中で、利用者の希望や思いを把握している。畑仕事が好きで、特別養護老人ホームへ行って会話をするのが楽しみな人、家族に会いたい、朝食はパンが食べたい等、思いを把握し、より良い暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に馴染みとされていた家具や布団を持参していただき、在宅での生活と変化少なくしていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼では夜勤者からの申し送りをしている。勤務に入る前は情報を共有し、確認し合っている。又、個人記録申し送りノートに目を通してから勤務に入っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当を決め毎月モニタリングの様子・状態を記入して会議で報告、必要性に応じて話し合いの場を設けている。ご家族様への手紙を出し、情報を伝えている。サービス担当者会議を毎月行い情報交換をして介護計画を作成している。	家族からの意向は、面会時の会話や、ケアマネジャーが電話で直接聞き取っている。サービス担当者会議の中で、各担当者からの報告等と併せ検討し、一人ひとりに適切な支援をしていくための計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録へ詳しく記載している。ケアプランの実施状況はより細かく分類されている。それを基に随時見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の思いに添った対応ができるよう多様な支援方法を考えている。 (機能訓練室にてマッサージ) (ラウンジにてコーヒー)		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容院・傾聴ボランティア・婦人会がホームへ来て下さり、馴染みの方との出会い、地域の輪ができるよう利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの利用者の近所のかかりつけ医や病院があり、ご家族様より常に情報を得ている。	ほとんどの利用者が入居前からのかかりつけ医で、家族が受診の同行をしている。依頼すれば往診に応じてくれるかかりつけ医もある。家族の都合の悪い時や、専門科医へは職員が受診の同行支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設されている施設の看護師の協力により体調の変化について対応してもらい、密に連絡を取り合い健康管理に留意している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	体調の不良を訴えられる時、施設で体調の変化に気づいた時には、介護記録を細かく記録している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期のあり方について説明している利用者の状況を見ながら提携医、家族と相談・理解を得ながら支援していく。	看取りに関する指針が整備しており、入居時に利用者、家族に説明している。状態の変化に応じ、家族や医師と相談し、対応方針の共有化を図りながら支援していくことになっている。現時点で、家族の要望に応えるためには、解決すべき課題がある。	事業所の対応力、職員の力量等について確認し、利用者、家族の要望を汲みながら支援・連携のあり方について具体的な進展に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は救急車対応とし、指定病院を設けている。併設の特養の嘱託医である水口先生より全ての応急対応や初期対応の講習を受けて、活かせるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て災害時の避難訓練、市主体の防災訓練に参加している。地域との協力体制ができている。災害時に備えての食糧の備蓄もできている。	避難訓練、防災訓練の実施と共に、夜間を想定した当直職員の動きについても訓練している。事業所を地域住民の避難場所に活用してもらえよう、提言している。必要な備蓄も確保している。災害時の地域との協力については、具体的な体制作りに至っていない。	災害時の地域との協力体制について、運営推進会議で提案し、具体化に向けた進展に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の既往症を把握し、言葉かけを大切にしている。誇りやプライバシーについても尊厳を持った接し方に心掛けている。	利用者一人ひとりに合わせた言葉掛けや対応をしている。利用者が落ち着き、笑顔で話ができるような場面づくりに努めている。野菜作り等でも、「利用者から教えていただく」という姿勢で接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけや疑問形で声掛けをしている。表情や動きからも自己決定が出来るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様にあったペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は必ず化粧される方がある。上下洋服のバランス・ファンデーションの色合い・スカーフ巻き方等の整容等、身だしなみを大切にされる方への支援を個別にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米・野菜等地元の産品を地域の八百屋さんより配達して頂いており季節感が分かり楽しんでいる。 食事メニューをお話してから一緒に準備・片付けを行っている。	季節の朴葉寿司作りは、葉を拭く人、御飯に具をのせる人、葉を閉じて開かないよう止める人等、一人ひとりの力量に合わせ、職員と共に会話を楽しみながら行っている。普段の食事でも、職員も一緒に食べながら、次回の希望を聴き、献立に反映している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1,500キロカロリー 水分1,300ccを基準に栄養バランス・色合い等を考え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを行っている。 食事前に嚥下体操を行っている。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見て早めの声掛けによりパッド内の汚染や失禁を少なくしている。日中紙パンツ対応の方が布パンツに移行できている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さり気なくトイレでの排泄を促し、パッドの使用量を削減する等に取り組んでいる。個々の生活リズムを整え、トイレでの排泄が習慣となるように自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時にヨーグルトを提供している。 1日1,300ccの水分補給と散歩・リハビリ体操で自然排便に繋がっている方が多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設けている。 朝から夕方までお好きな時間に入浴して頂けるようにしている。又、ひのき風呂・イス浴・個浴と選んで入浴することができるようにしている。	最低でも週に2回、入浴剤を入れたりして、信楽焼の浴槽での入浴を支援している。希望により、併設の特別養護老人ホームで検風呂を利用している利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝はご本人様のペースに合わせ支援している。 昼間は穏やかに楽しく過ごしていただき、夜間は良眠されるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は介護士が間違いのないよう日付・名前をお呼びして服用まで見届け確認印を押している。取り出し表を作り、責任もって持ち出したことに印で示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後は食器拭き、お膳拭きと役割をもっている。季節行事を行い皆さんで準備から片付けまで一緒に行っている。季節を感じて頂くために北側に畑を作り、野菜作り・中庭のプランターには種から花を植えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム外へ出る機会を多くしている。ご本人様の買い物や食材を買いに車で2~3人の方と一緒に出掛けている。 土日は少年野球の練習風景を見にホーム下のグラウンドへ出かけている。	戸外での外気浴、散策や買い物、ドライブ等、可能な限り利用者の希望に沿って支援している。家族の協力を得て外食や墓参りに、事業所の車で花見等の行楽にも出かけている。	

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が現金を所持して、安心していただける方も居る。利用者様の金銭管理については、入居時に家族様に説明し、同意書を得たうえで事務所に管理している。外出時には利用者様それぞれの希望に応じて買い物ができる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方は自由にお友達やご家族様と連絡を行われている。電話したいと希望されれば仲介し応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の掲示板にはご利用様が描かれた絵や作品を展示して頂いている。季節折々の花を飾り、匂いを楽しんでいたたり、水替え・水やりを行われている。	廊下から見える中庭には、利用者が育てているトマトの鉢植えがあり、季節感や喜び、生活感を共有出来るよう工夫している。スナップ写真や共同作品等の掲示物、利用者の家族が作った花瓶に庭先の花を飾る等、居心地の良い空間作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特養棟へ出向き、馴染みの方と楽しく過ごされている。他利用者様の誕生日会や行事にお誘いして仲間づくりとなるよう支援している。 置のある空間でゆっくりとくつろいでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具で心地よく過ごしていただいている。 ご家族様と話し合い、自室に合った家具等を工夫し持参されている。	ベッドとカーテン以外は、利用者が使い慣れた家具や小物、また、家族が選んで購入した整理ダンスや衣類掛け等を持ち込んでもらっている。写真や趣味の作品を活かし、家族と相談しながら、家具を配置する等、利用者が落ち着いて生活できるような居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっている。 廊下やトイレには手すりがあり、安心して生活できるよう対応している。自室やトイレは同じ柄・作りが似ているので大きな文字で分かりやすく書き自立した生活に繋げている。		